

沖縄米海兵隊オスプレイ墜落事故に関する緊急申し入れ

千葉県知事 森田健作 様

2016年12月15日 日本共産党千葉県委員会
日本共産党千葉県議会議員団

沖縄県普天間基地（宜野湾市）の米海兵隊新型輸送機オスプレイが12月13日午後9時半ごろ、名護市の海岸近くに墜落し、機体は大破した。同機は、空中給油という極めて実戦的な訓練の最中に事故を起こしたが、墜落現場は集落から数百メートルしか離れておらず、場合によっては大惨事につながりかねない。

今回の事故に対して、翁長雄志沖縄県知事や稲嶺進名護市長をはじめ、現地の住民は強く抗議し、オスプレイの安全性に強い疑問を呈している。

オスプレイは、開発段階から重大事故をくり返しており、同13日夜に事故機とは別のオスプレイが普天間飛行場に胴体着陸していたことも明らかになった。これまでも同機の危険性は厳しく指摘されてきたが、今回の事故は、それを改めて裏付けるものである。

オスプレイの「安全性」を繰り返し宣伝してきた日本政府も米側に対して、事故原因の究明や情報提供、安全が確認できるまでのオスプレイの飛行停止を求めざるを得なくなり、米側が当面、飛行停止としたことは当然である。

しかしながら、在沖縄米軍トップの第3海兵遠征軍司令官は「住民に被害を与えなかった。感謝されるべき」などと言い放ち、事故を起こした反省が全く見られない。まさに沖縄県民と日本国民を愚弄する以外の何ものでもない。これでは、まともな再発防止策など期待できるはずがない。また、報道によれば、今回の事故後に米国防総省報道部長は「オスプレイが重要な軍事能力を提供」「日本や地域の安全に貢献」しているなどと述べているが、同機が所属する海兵隊は「海外への殴り込み部隊」との異名をもち、日本防衛とは無縁である。オスプレイの飛行中止、日本からの撤去は急務である。

今回の事故は、千葉県民にとっても他人事では済まされない。日米両政府は、来年1月から陸上自衛隊木更津駐屯地において米軍オスプレイの定期整備を始めるとしており、そうなれば同機が沖縄から飛来することになる。

今回の事故をうけて、知事および木更津市は14日に「事故原因の徹底検証」「情報の提供」「安全確認ができるまでの定期機体整備運用開始の見合わせ」を申し入れた。

については、千葉県としても、危険なオスプレイから県民の安全と平穏な生活を守るために、日本政府に対して、以下の事項をさらに緊急要請するよう強く求めるものである。

1. 米軍に対してすべての情報提供を求め、その内容は直ちに千葉県や木更津市に知らせること。あわせて、県が国などから知り得た情報は、県民に速やかに開示すること。
2. 繰り返し重大事故を起こすオスプレイの危険性は明らかであり、木更津駐屯地での同機の定期整備を白紙撤回すること。
3. 横田、厚木、東富士演習場など首都圏周辺でのオスプレイの飛行を行わないこと。

以上